



## 園だより 冬休み

その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。

ヨハネによる福音書1章9節


12月に入ると、歩道側フェンスに子どもたちのオーナメントもたくさん飾られ、幼稚園では今年もクリスマスを待ち望むアドヴェントの日々が繰り広げられていました。

「待つ」ということを日常生活の中でも様々なときに子どもたちは経験をします。その「待つ」ということは子どもたちにとってあまり心地良いことばかりではないようです。けれども神様の御子イエス様を何百年も待ち望み「光」という喜びが与えられたように、「待つ」ことの大切さを思います。子どもたちは毎年、その「待つ喜び」をアドヴェント期間に経験をします。

第一アドヴェントの日、クラスの先生たちに「光」が届きます。それから毎日、子どもたちにも「光」※が届くのです。そしてそれぞれのクラス全員に「光」が届いたとき、幼稚園のクリスマスがやってきます。アドヴェントカレンダーなのです。一人に届いたり、お友だちと一緒に届いたり。「光」が届くお友だちには朝登園するとそのお知らせが来ています。初めて幼稚園でクリスマスを経験する年少組の子どもたちは順番に届くことに気付き、いつ誰に届くのか、今日は自分かな・・・と思いながら楽しみに登園して来ます。けれども願うようには届きません。残念がりどうして自分にではなくお友達に届くのか、「どうして届かない！」と地団駄を踏む子もいます。納得いかない気持ち、「待つ」ことの困難を経験します。けれども園生活の中で、年中組・年長組の子どもたちが届いたお友だちに「おめでとう」を言い互いに喜び合っている姿に出会います。自分に届かなくても届いたお友だちのことを喜ぶ、そんな様子を目にします。そしてそこには、温かな想いが流れていることも感じます。年少組の子どもたちの心持ちは少しずつ変わって行きます。いつか自分にも、と穏やかに「待つ」心地良さを感じるようになるのです。今年度の年少組にもアドヴェントの日々に育まれる温かな心の成長がありました。

それぞれの感性で感じながら育まれる心、その育みが成されるための保育者たちの備え、その経験の過程を大切に思います。子どもたちの成長と共に守られたクリスマス礼拝。保護者の皆様とご一緒に守られましたこと、感謝でした。忙しい年末が近づいてきています。コロナの状況もまだまだ・・・。どうぞご自愛くださりご家族でのクリスマス、年末年始をお迎えになられますことお祈りいたします。来年も宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子



※「光」・・・ここで言う「光」とは、保育者が子どもたち一人ひとりのために想いを込めて羊毛で作成したものです。みんな同じものではなく、最初は淡い黄色から、クリスマスに近づくにつれてイエス様のお誕生を知らせる暁星色へとグラデーションになっています。